

2017年度事業報告

保全団体サポート事業

会としての予算がなく人手も不足している中で、効率的に活動し成果を上げるべく努力しました。

【調査活動とデータベースの構築】

棚田ガイドブック制作により得られた新たな情報を含め、情報の整理を行いました。

【情報発信】

年4回の会報誌、Web、ブログ、facebook などを利用して情報発信に努めました。

【相互交流の場の創出】

2017年9月に長崎県波佐見町で行われた全国棚田サミットで、5度目となる「棚田保存会意見交換会」のコーディネイト役を務めました。

また、12月に行われた「エコプロ2017」では、全国棚田連絡協議会や全国各地の棚田保存会と協力し「日本の棚田共同展示コーナー」として4度目のアピール活動を行いました。地域の酒にフォーカスした新企画「棚田里山・酒の陣」は大好評で、全体的に改良改善し、昨年以上の成果を上げることができました。



都市住民向けの普及啓発事業

現地活動、棚田オーナー制度紹介サイト充実、旧暦棚田ごよみ販売などの活動に取り組みました。

【川代プロジェクト】

当ネットワークでは、棚田に関心のある都市住民が日帰りで気軽に農作業体験できる場として、千葉県鴨川市の川代集落の柿木代棚田に設定し3年目を迎えました。行事は川代集落の棚田オーナー制の行事に合わせて行い、5月3日の田植えツアー参加者14名と9月3日の稲刈り体験ツアー参加者5名でした。特に稲刈りは天候不順から1週間順延になったこともあり、参加者が少なくマイクロバスによる行事から高速路線バスとレンタカーによるツアーに変更しました。参加者の減少傾向は続いており今後のプロジェクトの在り方の検討が必要です。また、収穫した棚田米180kgも参加者の減少、送料が値上がりになり、5kg袋のみによる頒布となってしまいました。

【恵那地区・棚田ビオトーププロジェクト】

今年度も、棚田ビオトープ田植え、こどもビオトープ観察会、稲刈り、ヤマアカガエルの卵塊調査「かえるの卵を探そう！」(第11回!)を実施しました。とりわけこどもビオトープ観察会は雨天ながらも参加者31名と大人気。岐阜、愛知から子供に棚田(自然)の環境を体験させたいという保護者が大変多く集まりました。

【石部プロジェクト】

「昔ながらの米づくりプロジェクト」は6年目となりました。昨年同様6回のイベントでの作業のほか田起こし、代かき、脱穀・精米をスタッフの手で行いました。作業については保存会の協力のもと滞りなく行うことができましたが、葦口下の土壌の準備が不十分で水が漏れてしまい、保存会の方に少々ご負担をかけてしまいました。棚田米については約145kgの収穫がありました(前年125kg)。ただ、新規の参加者が少なく棚田体験の場として活用しきれっていないのが実情です。



【佐渡プログラム】

会としての佐渡ツアーは本年も実施できませんでした。

【棚田百貨堂（オーナー制度紹介サイト）】

新規で福井県高浜町今寺と香川県小豆島町中山の2地区を追加し、内容変更依頼や、リンク切れ・誤字等の修正を随時行いました。

【入門・活動紹介イベントなど】

2017年度も新宿区の子供環境学習イベント「まちの先生見本市」に出展しました。会場は戸塚第三小学校。体験型に重きを置いた棚田のブースでは、紙芝居や脱穀作業などを通じ、子供たちと一緒に米作りの大切さを学びました。



【旧暦棚田ごよみプロジェクト】

ケース不良のため卓上版の販売を中止し、壁掛け版のみを制作しました。また、要望が多かった「旧暦棚田ごよみ読本」を復活しました。9月開催の全国棚田サミットに間に合わなかったため 1000部限定で販売しましたが、『全国棚田ガイド』発売と重なったため営業が分散。こよみ販売に集中できなかったこともあり、実売800部にとどまり、見本・贈呈分を除くと100部の在庫となりました。

企業・団体向けの普及啓発事業

会に寄せられた相談への対応や、法人会員のCSR活動のフォローなど、限られた人員の中で活動を継続しました。新たなCSR活動サポート事業については、問い合わせはあったものの実施には至りませんでした。棚田保全米事業では、川代プロジェクトの体験田で収穫した棚田米を会員向けに販売しました。

組織運営について

会員の減少傾向を食い止めるには至っていません。2018年4月1日現在の会員数：274名(前年同期287名)。2017年度は新規加入者9名、退会者(会費未納による除籍含)22名でした。

【広報・Web】

ホームページの会報バックナンバーページにて、会報『棚田に吹く風』の64号（2009年4月号）から98号（2015年秋号）までをPDF閲覧ができるようにしました。棚田ガイドブックの広報特設ページの設置、ショップページの整備を行いました。象印ライスマイルプロジェクトとのコラボで棚田募金アクションを展開し、50万円の寄付金が集まりました。

【20周年記念プロジェクト(『全国棚田ガイド』出版事業)】

活動開始20年を記念し2016年秋に実質的にスタートした事業は、家の光協会の協力を得て10月1日に無事出版にこぎ着けることができました。初版3500部、追加印刷1000部となり、新聞紙面でも紹介されるなど好評です。これらの活動により2017年度の「オーライ！ニッポン大賞」を受賞しました。

